

かしばの神社探訪

二上山博物館では、市内に鎮座される神社とその境内に建立された石造物調査を継続的におこなっています。市内には、24*の神社が鎮座され、氏子の皆さんや地域で維持・管理され、地域に根ざした信仰の場を大切に守り伝えてこられました。それぞれの社に特徴がありますが、「由来沿革不詳」といった社が多いのが現状です。本調査は近世・近代の文書や石造物に刻まれた銘文などから、各社の歴史を紐解きたいと考えています。調査成果の一部は、CANCAN Mailmagazineに掲載しましたが、ここでは、その後の調査成果も加え、再編集したホームページ版としてご紹介します。

*本調査は、『香芝町史』に掲載されている神社を対象にしています。掲載順も『町史』に合わせています。

① 杵築神社(狐井)



境内の石造物は、堺街道に面して、明治四〇年(一九〇七)銘の鳥居と昭和三年(一九二八)年銘の常夜燈を配し、境内を玉垣で囲んでいます。この玉垣も昭和三年銘であることから、その頃に境内地整備が行われたと考えられます。また、拝殿前にも対の常夜燈と狛犬がありますが、銘は摩滅できませぬ。昭和五〇年頃の石造物調査の記録には、石燈籠は寛政九年(一七九七)、文化二年(一八〇五)とあり、狛犬は天保一三年(一八四二)とあります。同記録には、寛文一三年(一六七三)と貞享元年(一六八四)銘の石燈籠がみえますが、現存していないか、立ち入りできなかった本殿前に配されている可能性があります。その他境内には、天保一四年(一八四三)銘の手水鉢や狐井の地名の由来になった狐の井戸、カくらべをしたかたげ石(カ石)があります。

杵築神社(狐井) 摂社…金毘羅社、太神宮社

祭神 須佐之男命

(概要)

近鉄下田駅から南へ約一・一*、旧堺街道と狐井街道の交差点東側、杵築神社・福応寺・万徳寺と並んで鎮座されています。

本社は、伝承によると、楠木正成に仕えた赤土家二代正長が河内国から狐井に住した際、千早赤坂城の鎮守を勧請したのが始まりとされます。『狐井村鑑』には、「神(福応寺)内二牛頭天王」とみえ、明治期までは福応寺の境内社であったことがわかります。春日造の本殿創建は不詳ですが、明治一年(一八七〇)に再建、同二年(一八七六)屋根替とあり、拝殿は天保一一年(一八四〇)再建と記録にあります。

② 巖島神社(五ヶ所)



境内の石造物には、鳥居と数基の常夜燈があり、拝殿前の狛犬には文久元年(一八六一)銘があり、本殿再建に伴って建立されたのでしよう。ほか五位堂鑄物師津田五郎兵衛作になる宝曆三年(一七五三)銘の鉄湯釜、箱書に明治二一年(一八八八)七月の墨書がある奉納御神鏡があります。また、拝殿に掲げられていた四季耕作図絵馬(縦八八・〇*×横一八八・五*)は、平成六年三月に市指定文化財となつて、二上山博物館に寄託されています。

巖島神社(五ヶ所)

祭神 市杵島比売命

(概要)

近鉄下田駅から北東へ約二・二*、五ヶ所集落のほぼ中央、小高い丘の上に鎮座されています。

由来沿革は不詳ですが、春日造の本殿は元文年間(一七三六、四)に修繕され、万延年間(一八六〇、六)に再建され、明治一八年(一八八五)、同三六年(一九〇三)に修繕と記録にあります。また、拝殿は、明治元年に再建され、現在は建替られています。

③ 戎神社(北今市)



戎神社 (北今市六丁目) 摂社 稲荷社

祭神 蛭子命
(概要)

近鉄下田駅から北西へ約一・四km、北今市集落の西端に鎮座されます。毎年一月の第二日曜日に「初えびす」があり、商売繁盛の祈願をされる方々で大賑わいです。当社の元の鎮座地は、現在の顕宗陵付近にあり、明治三年(一八九〇)頃、陵墓指定に伴って現在地に遷されました。本殿は、元禄年間(一六八八〜一七〇四)に再建され、嘉永年間(一八四八〜五四)に修繕、移転時にも修繕が行われ、大正二年(一九一三)に屋根替、昭和五六年に新築とあります。拝殿も嘉永年間と移転時に修繕され、大正二年・昭和三〇年に屋根替、昭和四四年改築とあります。

境内の石造物をみると、拝殿前に嘉永元年銘の常夜燈と狛犬があり、天保九年(一八三八)銘の金毘羅大権現常夜燈、神武天皇遙拝碑、戦没者の方々の慰霊碑があります。

④ 大坂山口神社(逢坂)



式内社大坂山口神社 (逢坂五丁目)

祭神 大山祇命・素戔嗚命・神大市姫命
(概要)

近鉄二上駅から東へ約四五〇m、逢坂の集落西部に鎮座する当社は、近世に社寺詣道として頻りに利用された伊勢街道に面しています。

本殿は三間社流造、檜皮葺、明治期の「神社明細帳」調には、「社殿創立年月不詳、永禄三庚申年(一五六〇)六月再建」とあり、寛永十五年(一六三八)の棟札や構造手法からもこの時期の建立と考えられます。しかし、軒廻りや妻飾、向拝部の模様・組物・扉口などに桃山時代の建築様式が残されています。境内の流造本殿の中でも古例に属し、昭和六三年に県指定文化財に指定され、解体修理が行われています。また拝殿は、明治二十年(一八九三)に再建され、平成六年に再々建されています。

境内の石造物は、正面に貞享三年(一六八六)銘の鳥居、その左右に文化五年(一八〇八)銘の常夜燈が配され、石段を登りきると、弘化四年(一八四七)銘の狛犬が出迎えます。拝殿前にも数基の常夜燈があります。

平成一三年、本社神宝類の学術調査を実施し、平安時代末以降の貴重な文化財を確認しました。神像群には、鎌倉時代の木造男神坐像・女神坐像など、八種一一体、狛犬は平安時代末期を最古として、五種八体があります。文書は、和銅五年銘(追記の竹簡に納められた「宮座文書」と享保六年(一七二一)銘の「大和国葛下郡大坂神社記」があります。祭具には鉄湯釜があり、享和三年(一八〇三)「石見掾」とみえ、五位堂鑄物師の小原家の鑄造になります。これらの社宝は、本社の来歴を知る上で貴重な資料のため、平成一四年に一括して市指定文化財に指定され、現在は二上山博物館に寄託されています。

大坂山口神社は古代大坂越えにあたる穴虫とその東北に所在する当社があり、ともに式内社と称しています。



⑤ 山崎神社(下田)



山崎神社 (下田東三丁目)

祭神 須佐之男命
(概要)

近鉄下田駅から東へ約一・〇km、国道一六五号線に接しますが、周囲の喧噪とわうてかわって静寂な空間がそこにあり、村の鎮守の雰囲気が残っています。

当社は馬見丘陵の南西端部に位置し、本殿・拝殿はその斜面に建てられています。そのため鳥居から古びた石段が伸び参道となっており、白壁で囲まれた本殿が拝殿に直結して神域を形成しています。由来沿革は不詳ですが、本殿・拝殿ともに明治一〇年(一八八七)三月改築の記録があります。

境内の石造物は、石段下に鳥居、手水舎、凱旋記念碑、数基の常夜燈が残ります。本殿前で対になる常夜燈には、宝永五年(一七〇八)と文政二年(一八一九)銘があり、同じく対の狛犬には、天保二年(一八三一)と文政二年(一八一九)銘があり、同じく対の狛犬には、天保二年(一八三一)と文政二年(一八一九)銘があり、同じく対の狛犬には、天保二年(一八三一)と文政二年(一八一九)銘があり、同じく対の狛犬には、天保二年(一八三一)と文政二年(一八一九)銘があります。

なお、拝殿を右廻りに進むと、西真美一丁目の住宅地になります。



⑥ 金毘羅社(下田)



金毘羅社 (下田東二丁目)

祭神 大物主命

(概要)

近鉄下田駅から東へ約500m。下田駅の北側に位置する鹿島神社からさらに東へ延びる東西道は近世の伊勢街道にあたります。かつては、道の両側にさまざまな店が軒を連ね、市がたち、「下田は大和の江戸」とよばれるほど大変賑わっていたといえます。しかし、趣のある建物は取り壊され新しい住宅が建ち、街道の面影も少しずつ失われています。

その通りのなかほど、JRの踏切を渡り、鳥居川に架かる鳥居橋のたもとに金毘羅社が鎮座されます。小社ですが、もとは天保年間(一八三〇〜四四)、西村清兵衛氏が鹿島神社境内の森に祀られていた同社の祠が人知れず朽ちていくのを残念に思い、自宅屋敷の乾角に勧請したのが始まりとされます。明治三〇年(一八九七)頃、現在地に遷され、大正九年(一九二〇)には、西村家が講元となつて金毘羅講(当時一三名)が組織されています。毎年七月一〇日には夜店が出て盛大な夏祭りが行われます。

境内には石造狛犬が配されていますが、近年に作り直されています。かつての狛犬台座には、天保一年(一八四〇)銘があり、世話人に魚屋・煙竹屋・錦屋・臼屋・紺屋といった屋号がみえ、この通りが賑わっていたことを物語っています。

⑦ 春日神社(下田)



春日神社 (下田東五丁目)

祭神 天児屋根命

(概要)

近鉄下田駅から北東へ約1km。中の池の西側に鎮座されます。神社入口には、寸詰まりの石鳥居と昭和九年(一九三四)銘の石燈籠が参拝者を迎えます。拝殿に向かうと石段の左右に四基の石燈籠が配置され、拝殿前には対の狛犬があります。拝殿と本殿は渡り廊下で結ばれ、周囲は白壁の塀で囲まれています。本殿は一間社の春日造になります。

由来沿革は不詳ですが、四基の石燈籠と対になる狛犬には、天保二年(一八四一)八月銘があり、この時期に境内地整理が行われたと考えられます。また、石燈籠の銘には、實屋新右衛門・紺屋忠次郎など、屋号を冠した施主名がありますが、これらの人びとは、鹿島神社結縁座文書(県指定文化財)の入衆記録にもみえることから、下田における商業の変遷を考える上で、貴重な資料となります。

⑧ 龍王社(下田)



龍王社 (下田東四丁目)

祭神 八大龍王

(概要)

近鉄下田駅から東へ約700m。県道上中下田線から狭い路地を入りますので、少しわかりにくい場所所に所在します。

境内の泉地中央に石垣で基礎を造り、その上に小祠を置いています。八大龍王は法華経に登場し、仏法を守護する神で、古来から雨乞いの神として祀られてきました。祠の向かつて左側面には見応えのある龍の彫刻があります。境内には、土地を寄進した旨の石柱が建てられています。

⑨ 鹿島神社(下田)

鹿島神社 (下田西二丁目)

祭神 武甕槌命
(概要)

近鉄下田駅の北側に鎮座される鹿島神社は、承安二年(一一七二)三月、源義朝の家臣であった鎌田兵衛政清の子、小次郎政光が常陸国(現茨城県)鹿島神宮の御分霊を勧請したのが始まりとされます。現本殿は一間春日造の檜皮葺で、大正年間改築になりました。拜殿の棟木には、嘉永七年(一八五四)上棟の墨書があり、拜殿・絵馬殿・山車殿・社務所などの主な建物は、昭和五十八年以降、随時改築されました。拜殿前にあつたかつての狛犬には、天保四年(一八三三)銘がありました。また、延享三年(一七四六)・宝暦五年(一七五五)銘などの常夜燈が配されています。

本社には氏子の宮座である結鎮座があります。その組織や年中行事などを記した四六点の文書からなる結鎮座文書は、昭和三十七年に県指定文化財となつて、奈良国立博物館に寄託されています。村落構造や宮座構成の変遷を考へるうえで貴重な史料となっています。主な文書は、宮座に入座された方々の芳名録ともいえる「座衆帳」(三枚三巻)で、建久七年(一一九六)から慶応二年(一八六六)まで書き継ぎされ、現在も継承されています。また、建武二年(一三三四)から享徳三年(一四五四)までの「修正修二莊殿結鎮座役差定」(二枚)、応安二年(一三六九)以前の「祭札や神饌物を記した経営古記」(一巻)、延文四年(一三五九)の「寺納御日記」(一冊)、嘉慶二年(一三八八)・応永二年(一三六九)・明応二年(一四九三)の「田地売券」(各一枚)、文安元年(一四四四)に法楽寺の僧安学院衆進がまとめた「座衆経営録」(一巻)、永正元年(一五〇四)の「下田法楽寺座法則次第」(一巻)、鹿嶋宮法則次第「各一巻」、弘化四年(一八四七)頃の「境内馬場図」(一幅)などがあります。

また、結鎮座によって宮座の上十人衆が輪番する頭屋宅に神社の御神靈を奉迎する渡御行事は、平成一七年に市指定の無形民俗文化財に指定されました。この祭礼は、毎年一月二六日に行われます。「経営古記」や「座衆経営録」の記録と比べて規模は縮小されていますが、中世から連続と受け継がれてきた古式を随所に残しており、宮座の歴史や行事の変遷を知るうえで貴重な民俗文化財となっています。



⑩ 志都美神社(今泉)

式内社志都美神社 (今泉)

祭神 天児屋根命・善田別命・中筒男命
(概要)

JR志都美駅から西(約七五〇m)、旧太子道沿いに鎮座されます。弘仁四年(八二二)、四位民部少輔片岡綱利が宮を片岡に造り、同氏の鎮守として創建。往古は清水神社と称されていたと社伝にみえます。現在の本殿は三間社流造で、江戸時代中期の建立と考えられます。享保九年(一七二四)の「今泉村諸色明細帳」には、「清水三社大明神」春日大明神八幡大菩薩・住吉大明神とみえ、また同年の「上里村諸色明細帳」には、「清水八幡宮・三社春日大明神」住吉大明神・上里村・中筋村・今泉村・今市村・高村とあり、五ヶ村の総氏神であつたことがわかります。

元禄年間(一六八八～一七〇四)、盲目の僧侶が境内に湧いていた清水で目を洗つて靈験があつたとの伝承があり、「大和志」や「大和名所図会」には清水八幡として紹介され、鳥居や手水鉢にも刻まれています。境内の石造物は、旧太子道に面する鳥居が貞享元年(一六八四)銘で、その左右に天保一四年(一八四三)・明治二五年(一八九〇)銘のある大型の常夜燈があります。境内の常夜燈は延宝八年(一六八〇)銘が最も古く、全部で六八基配されています。拜殿前には明治一三年(一八八〇)銘の狛犬、本殿背後の石垣の中には、明治一二年銘の「コレヲ防疫碑」が嵌められています。

また、境内には明治期の神仏分離まで神宮寺の明王院があり、天文二二年(一五五三)三月、三条公衆の「吉野詣記」には、高野山・吉野参拝からの帰途、「片岡清水明王院」で一夜を明かしたことが記されています。さらにその不動堂には、「中尊石仏ノ不動御長二尺二寸」(上里村諸色明細帳)があり、平成六年に市指定文化財に指定の念通寺・石造不動明王立像がそれに当たります。なお、本殿背後に広がる社叢は、平成八年三月に県指定の天然記念物に指定されました。巨樹は少ないですが、見事な林相が形成されていて、学術上きわめて貴重な自然が保たれています。



⑪ 厨神社(尼寺)

尼寺厨神社 (尼寺)

祭神 御饌津大神
(概要)

JR志都美駅から国道一六八号線に沿つて北(約一三〇m)、尼寺般若院の西側に鎮座します。明治二六年(一八九三)の「神社明細帳」調に、「大和志三尼寺邑厨祠乃火幡神社撰社也」アルハ当社ヲ指スナリとあり、現在王寺町畠田に鎮座する式内社火幡神社の境外撰社との位置づけになっています。御饌津大神は伊勢内宮の天照大神に御饌を調える天香山命(高倉下命)と同神になります。社殿の沿革は不詳ですが、本殿は一間社流造の銅板葺で、拜殿・山車殿が配されています。境内には、寛文一三年(一六七二)・嘉永元年(一八四八)銘の常夜燈が献納されています。



⑫ 杵築神社 (平野)



杵築神社 (平野) 摂社 春日神社 熊野本宮

祭神 須佐之男命
(概要)

JR志都美駅から北西へ約1km。平野正楽寺の西側に鎮座されます。由来沿革は不詳ですが、「平野村鑑」によると、「牛頭天王内二薬師堂 大日堂」とみえますが、現在の二堂は見当たりません。また摂社は「本宮権現」、「春日明神」としています。本殿は一間社春日造になります。境内の石造物は、二の鳥居に寛政四年(一七九二)銘があり、拝殿前の狛犬には、慶應元年(一八六五)銘と石工寺安兵衛とあります。この安兵衛の作品は田原本町と上牧町にも残されています。ほか延宝七年(一六七九)、寛政五年、同6年銘の常夜燈が奉納されています。

⑬ 太神宮・金毘羅社 (上中)



太神宮・金毘羅社 (上中)

祭神 天照大神 大物主神
(概要)

JR志都美駅前、正願寺門前の旧当麻道沿いに鎮座されます。小区画の間に囲まれた中に小祠が二社並列して祀られています。向かって右が太神宮、左が金毘羅社となります。由来沿革は不詳ですが、祠の前に配される石燈籠に文政二年(八一九)銘があり、おそらく「領主御武運長久」、「五穀成就を願ってこの年に勧請された」と考えられます。

⑭ 十二社神社 (五位堂)



十二社神社 (五位堂四丁目) 摂社 春日神社 皇大神社

祭神 天津神七柱・国津神五柱
(概要)

近鉄五位堂駅から集落の南北道を南へ約600m、宝樹寺と徳蔵院に囲まれた一角に鎮座されています。由来沿革は不詳ですが、「五位堂村鑑」には、「十二社権現 社地 百貳拾六坪(内二春日明神)とみえ、祭神は「天津神七柱 国津神五柱の十二柱、それで社名は「十二」となります。そもそも熊野三山に共通する「熊野十二社権現」と呼ばれる神仏習合の十二柱を勧請したもので、明治期の神仏分離令により、「十二社神社」に改められたと考えられます。五位堂地域は江戸時代に鑄物産業が栄え、県内を代表する近世鑄物師が活躍しました。本社はその鑄物師の氏神でもあり、天保一〇年(一八三九)銘の鑄鉄鳥居一基と拝殿横に保管される文政二年(八一九)・天保一〇年銘の鑄鉄燈籠四基が奉納されています。五位堂鑄物師の遺品は、戦時の供出などで残り少なく、かつてこの地域で栄えた産業界を研究し、地域の来歴を知るための貴重な資料として、平成八年度に市指定文化財に指定されました。境内の石造物は、十二社権現とある延宝八年(一六八〇)銘の常夜燈のほか、数基の常夜燈、拝殿前には狛犬が配されています。いずれも天保一〇年銘であることから、この頃に境内地整備が行われたことが考えられます。

15 皇太神社(瓦口)



皇太神社(瓦口) 摂社 稲荷社 春日神社 多度神社 琴平神社

祭神 天照皇大神

(概要)

近鉄五位堂駅から東へ約四〇〇m。長福寺の東側に鎮座されています。由来沿革は不詳ですが、天明三年(一七八三)の『瓦口村領内明細帳』には、「天照太神宮」毘沙門天王「春日大明神」当村氏神「多度大神宮」とみえ、天保四年(一八三三)の『瓦口村書上帳』にも同様の記事があります。境内の石造物は、すでに現地にないものもありますが、万延元年(一八六〇)の鳥居、拜殿前に配置される天保四年銘の狛犬、天保一〇年(一八三九)銘の金毘羅大権現の常夜燈、宝暦元年(一七五一)・文久三年(一八六三)・元治元年(一八六四)の常夜燈、その他、日清・日露戦没記念碑、支那事变記念柱が残されています。

16 天神社と観音堂(鎌田)



天神社と観音堂(鎌田)

祭神 大山祇命・天津彦火瓊杵尊、木花咲耶姫命

(概要)

近鉄下田駅から南へ約二・五km。国道一六八号線の鎌田交差点を左折してすぐ、西方寺の北側に鎮座されています。正徳二年(一七二二)の鎌田村明細帳には、「一、観音堂長福寺之内巻反巻畝(但し敷共除地)一、鎮守一社長福寺境内之内」とみえ、長福寺の境内に観音堂と鎮守一社があったことがわかります。長福寺は明治期に廃寺となつて、残された鎮守は天神社となつて、鎌田の氏神として厚く信仰されてきました。現在の本殿並びに拜殿は、昭和五六年一〇月に改築されました。また、境内に残された観音堂には、宿院仏師作の木造十一面観音菩薩立像(室町期)が祀られています。境内の石造物には、イチヨウの巨樹(市指定天然記念物)の根元に天文二年(一五三三)銘の名号碑と庚申碑、宝暦二年(一七六二)・文久二年(一八六二)銘の常夜燈、弘化四年(一八四七)銘の狛犬、嘉永六年(一八五三)銘の百度石などが残されています。

17 十二社神社(別所)



十二社神社(別所)

祭神 天津神七柱・国津神五柱

(概要)

近鉄五位堂駅から東へ約七五〇m。ハス池の北側に鎮座されます。本社は伊勢街道に接し、古い街並みの一角に位置しており、閑静な雰囲気があります。由来沿革は不詳ですが、天保一四年(一八四三)の村方諸色目録明細帳に、「一、十二社権現様 多度権現様 氏神とみえ、明治二五年(一八九二)の『神社明細帳』には、「天津神七柱 国津神五柱」を祀ることから、五位堂の十二社神社と同じく、当初は熊野三山の「熊野十二社権現」と呼ばれる神仏習合の十二柱を勧請されたもので、明治以降現在の社名に改められたと考えられます。本殿は一間社の春日造で、昭和五年一〇月に改築されています。境内の石造物は、参道入口に安政四年(一八五七)と慶應元年(一八六五)銘の大型の石燈籠があり、明治一三年(一八八〇)七月建立の鳥居、文政一三年(一八三〇)銘の常夜燈、拜殿前に天保一五年(一八四四)銘の狛犬、本殿脇には、享保三年(一七一八)銘で「十二社権現」とある対の常夜燈があります。

18 杵築神社と観音堂(良福寺)



杵築神社と観音堂(良福寺)

祭神 須佐之男命

(概要)

近鉄下田駅から南へ約一・五km。三和小学校の東側に鎮座されています。由来沿革は不詳で、関係史料もほとんど残されていませんが、拝殿右側にある宝曆一年(一七六一)銘の石燈籠に「牛頭天王宮」とあることから、かつては牛頭天王社であったことがわかります。また、拝殿には昭和四十七年の台風で破壊した本殿・石鳥居・観音堂修理の記録があります。

境内の石造物は、文政二年(一八一九)銘の狛犬、明和六年(一七六九)銘の大峯山常夜燈、文化八年(一八一二)銘の金毘羅大権現常夜燈、明治元年(一八六九)明治十五年(一八八三)銘の太神宮常夜燈が残されています。

なお、境内には、明治期の『寺院明細帳』に創立年月不詳、宝永二年(一七〇五)一夢大徳本堂再建以来沿革不詳とみえる観音堂があります。本尊は室町期の木造十一面観音菩薩立像で、宿院仏師作と考えられます。また、観音堂の右側には、一夢堂とよばれる小祠があり、一夢大徳の容姿を写したとされる石造地藏菩薩立像が祀られており、台石に貞享四年(一六八七)銘があります。

19 大坂山口神社(穴虫)



式内社大坂山口神社(穴虫)

祭神 大山祇命・須佐之男命・天児屋根命

(概要)

近鉄二上駅を西へ約三〇〇m。旧長尾街道に面し、穴虫峠越の入口に当たる古代からの交通の要衝に鎮座されます。

本殿は三間社流造の銅板葺で、文化一三年(一八一六)の再建ですが、寛永二年(一六二五)以来の棟札が六枚残されています。それによると、背後の山の石巖を掘削して神域を広げたことを記すものが三枚あり、当初は小祠であったと考えられます。また、他の二枚には祇園宮寺とみえ、当社の神宮寺の存在が認められます。本殿両脇の摂社は、向かって右が琴平神社で金山彦命を、左は殿島神社で市杵島姫命を奉祀します。拝殿は間口五間、奥行二間の割拝殿で、棟札から延享元年(一七四九)九月の再建とわかります。平成元年三月、本殿屋根を銅板葺に改修した際、拝殿脇、上段の塀、手水舎が新築されました。

享保二年(一七三六)の『大和志』には、「在穴蒸村、今称牛頭天王、名区也」とあって、牛頭天王社(祇園宮)と称されており、秋の大祭には、奉納相撲が行われ相当な賑わいであったようです。拝殿には文久二年(一八六二)、明治十九年(一八八六)、昭和四五年の板番付が残されています。地元出身の力士、大の松為二郎こと吉田栄蔵(一八五九〜一九二二)は、引退後、勸進相撲の総元締として活躍しました。

20 春日神社(畑)



春日神社(畑)

祭神 天児屋根命

(概要)

近鉄二上駅から南西方面に約四五〇m。しだれ桜で知られる専称寺の西側に隣接して鎮座されます。

由来沿革は不詳ですが、畑の内宮とよばれ隣接する葛城市加守の式内社葛木倭人坐天羽雷命神社の境外摂社とされています。明治四年(一八九一)調の「神社明細帳」には、社殿は方一間二尺、拝殿、燈明舎、水屋家形があったと記されています。現在の本殿は一間社春日造、銅板葺になります。

境内の石造物には、拝殿前に文久三年(一八六三)銘の常夜燈が二基、西側に春日燈籠七基、明治三九年(一九〇六)銘の神武天皇遙拝所碑、凱旋記念碑などが残されています。

⑳ 関屋八幡神社 (関屋)



関屋八幡神社 (関屋)

祭神 菅田別命

(概要)

近鉄関屋駅から旧長尾街道を西へ約五〇〇^{メートル}。一の鳥居を左折し約五〇^{メートル}、関屋保育所の東側に鎮座されます。

由来沿革は不詳ですが、明治二四年(一八九一)調の『神社明細帳』には、本殿横に撰社皇大神宮を祀るとあります。一の鳥居からさらに西へ約七五〇^{メートル}進むと、長尾街道は伊勢街道と分岐することもあり、天照大神が勧請されたと考えられます。平成一一年六月の大雨で、土塀及び拝殿の一部が破損し、拝殿は平成一二年に全面改築されました。

境内の石造物をみると、一の鳥居は安永二年(一七七三)銘があり、その左右の常夜燈には文政二年(八二九)銘があります。参道には万延元年(一八六〇)銘の六基の常夜燈があり、拝殿前の狛犬には嘉永元年(一八四八)銘があります。本殿前には、寛保二年(一七四二)銘の常夜燈が献納されています。

㉑ 三輪神社 (田尻)

三輪神社 (田尻)

祭神 大己貴命

(概要)

近鉄関屋駅から西へ約九〇〇^{メートル}。楠木正成の矢除き観音で知られる観音寺の北東に隣接した丘陵上に鎮座されます。

祭神の大己貴命は大国主命と同神になります。由来沿革は不詳ですが、観音寺から見て、後方の山を神体山とみなして、三輪明神を勧請されたといえます。社殿は明治二〇年(一八八七)頃に初めて新築したと伝えられています。そのため、境内には元禄五年(一六九二)銘の手水鉢がありますが、他所からの搬入の可能性があります。

㉒ 春日神社 (磯壁)

春日神社 (磯壁五丁目)

祭神 天児屋根命

(概要)

近鉄下田駅から南南西方向に約一・二^{キロメートル}。法満寺と正林院の東側に隣接して鎮座されます。

明治二四年(一八九一)調の『神社明細帳』には村社とありますが、もと磯壁の庄屋仲氏の私祠であったといえます。明治になって、経営・祭祀全般を村で引継ぎ維持されてこれられました。

境内の石造物は、明治期の鳥居の横に、天保一三年(一八四二)銘の常夜燈があり、台石に「南都」石工「頼采」とあります。拝殿前には狛犬は、その台石に昭和八年銘がありますが、昭和五〇年代の石造物調査の記録から安政四年(一八五七)銘の狛犬があったことがわかります。他に、昭和一一年一月に発生した河内大和地震で損壊した建物を修理新築したことを物語る復興記念碑があります。





長山神社 (磯壁一丁目)

祭神 保食命

(概要)

近鉄下田駅から西南方向に約八〇〇m。香芝中学校の西側に鎮座されます。由来沿革は不詳ですが、明治二四年(一九九一)調「神社明細帳」には、「日本書紀」にみえる食物神・保食命が祭神となっております。同じ食物神である稲荷神や宇迦御魂神と同神として、稲荷神社に合祀され、祭神とされる場合も多くあります。また本社は鎌芝稲荷・杉作稲荷・長山稲荷ともよばれています。「香芝町史」には、「稲荷神社」として紹介されていますが、拝殿に平成九年新築工事に伴う寄附者の方々の名前を連ねた額が奉納されてあつて、最後に「長山神社」とあります。

当社には、五位堂鑄物師の小原氏作になる万延二年(一八六一)銘の鉄湯釜が保存されており、境内の石造物には、拝殿前の狛犬一對と常夜燈四基、万延元年銘の百度石があります。